

Conferencing News & Analysis-- Independent & Unbiased Perspective Since December, 1999

電話会議・テレビ会議・Web 会議専門ニュースレター Vol. 6. No. 6 2004 年 3 月 31 日号 毎月 15 日・月末発行

創刊 1999 年 12 月 8 日 発行/編集: 橋本啓介 k@cna.jp Copyright 2004 Kay Office All rights reserved.

ニュースダイジェスト

■FVC の ClickToMeet、ロンドンの学校 2600 校に導入決定

米ファーストバーチャルコミュニケーションズ社が提供する H.323 に準拠した PC ベースのウェブ会議システム「ClickToMeet」が、イギリスロンドンの 2600 の学校に導入されることが決定した。現在は、いくつかの指定された学校で試験的に運用されている。2600 校への導入は 2006 年までに完了予定。65,000 名の教師や約 100 万人の学生をカバーすることになる。

イギリスでは、英政府が実行する学校ブロードバンド計画をサポートする目的で、RBCs とよばれるコンソーシアムが設立されており、2 年以内に、英国にある全ての学校にブロードバンドインターネットの設置を目指す。

その実働部隊として、非営利組織としての“LGfL”が、33 のロンドン地区教育局 (LEAs) 内に設立され、地域の学校に対して、ブロードバンド接続サービス (2Mbps から 100Mbps)、マネージドサービス、オンラインコンテンツサービスなどを提供している。

今回の ClickToMeet の導入に至った理由としては、LGfL の Ian Lehmann 氏によると、「ブロードバンド環境を最大限に活用したかった。」と振り返る。「ウェブ会議システムというのは、ブロードバンドインターネット環境を最大限に活用することができるもっとも価値ある方法であり、教育に対する新たな機会を提供すると判断した。」

さまざまな製品があるなかで、ClickToMeet は操作性、運用の容易さ、既存の会議システムとの連携も視野にはいった製品などといった点が今回導入のポイントになったと同氏は述べる。

ClickToMeet は、日本では、ネットワンシステムズ (東京都品川区) 等が販売している。

■シスコシステムズ、日本市場向け Call Manager 4.0、IP VT Advantage、IP Communicator リリース

CNA リポート・ジャパン Vol.6 No.4 2004 年 2 月 29 日号

「シスコ、デスクトップ IP テレビ会議ソフトウェア」関連の記事で米シスコシステムズが、IP テレビ会議、Call Manager 4.0 のリリースを発表したが、日本市場向けについては 3 月 23 日に発表となった。製品内容等については、上記 2 月 29 日号を参照されたい。

日本法人が発表したプレスリリースによると、「Cisco IP Communicator」をリリースする。Cisco IP Communicator は、PC に IP Phone 機能を追加するソフトウェアアプリケーションで、シスコが提供している VoIP で利用できる技術及び拡張機能等はこのソフトウェアで提供される。また、Cisco Call manager に、この Cisco IP Communicator を登録すると、Cisco IP Phone と同じように設定や管理が行え、さらに同じ機能を利用することができる。たとえば、呼の切り替えや転送、3 者間通話 (会議) 機能などである。また XML ベースのアプリケーションを表示することも可能という。

日本での販売時期などについては、「Call Manager 4.0」、「Cisco IP Communicator」、「IP VT Advantage (IP テレビ会議ソフトウェア)」については、今年の 4 月-6 月期に予定されている。参考価格については、「Call Manager 4.0」は、811,000 円から、「Cisco IP Communicator」は、ライセンスを含め、35,000 円、そして、「IP VT Advantage」については、USB カメラ、ソフトウェア、ライセンスを含め 28,000 円となっている。

■Visual Nexus、英国を拠点に海外展開へ

インターネットに対応した PC 向けの H.323 テレビ会議システム「Visual Nexus」を開発、販売するトーマンサイバービジネス (東京都港区) は、「Visual Nexus Ltd.」英国法人を今年 4 月 1 日に設立する。

英国法人は、英国を拠点とした Visual Nexus の海外展開を行うために設立する。英国在住の Geoff Seabrook 氏が常勤の代表者に就任。トーマンサイバービジネスで、Visual Nexus の販売を指揮してきた、取締役インターネットプロダクツ事業部部長の鈴木 敦久氏と、取締役 武富 良知氏が非常勤となる。資本金額は、10 万ポンド (約 1900 万円)。日本では、アイ

ピー・ネット(東京都江東区)などが販売代理店。

■メッセージワンとアクセル、Web 会議 ASP サービス開始

メッセージワン(東京都千代田区)とアクセス(東京都昭島市)は、業務提携を行い、インターネット網を利用したウェブ会議による貸し会議サービス「エブリネット Meeting」を開始した。

メッセージワンが運営するウェブ会議システム「GloBiz21」と、アクセルが提供するボイスメールを軸とした、ユニファイドメッセージング ASP サービス「エブリネット」に連動させ、ウェブ会議を低価格で気軽に利用したいユーザーに対応する。

「GloBiz21」は、ソフトウェアのインストールや特別な装置などの設置が必要なく、インターネットと PC があれば、双方向で映像、テキスト、データ共有などが行える PC 向けテレビ会議システム。

会議室参加人数を、4名から 25 名まで 6 段階設定でき、データ共有機能、ホワイトボード機能、チャット機能、メッセージ送信機能、そしてマイクのオンオフ、強制退場などの主催者権限などの機能を装備する。

また特長として、システムとネットワークの負荷が軽く、128kbps の低帯域で多地点(25 ヶ所同時接続)が行え、転送経路の分離、つまり、音声、文字、イメージのデータは、TCP でサーバー経由し、映像は、UDP で、ユーザーどうしでやりとりされるという。

導入実績としては、メッセージワンのホームページによると、日興コーディアル証券などで導入されており、同社では、各営業店や本社企画部門などで利用している。ミーティングに関わる移動費用と移動時間の削減、そして会議開催機会の増加を図り導入を決定したという。現在 40 営業店で試行中で今後利用の拡大を行っていく計画。導入したライセンス数は、スタンダード版 25 同時ライセンス。

もともと「GloBiz21」システムは、韓国企業が開発し、メッセージワンが日本語ローカライズしたもの。2000 年 12 月には、現代(ヒュンダイ)自動車を始め、DPI(旧:大韓ペイント)、韓国通信、起亜自動車などに導入実績があるという。

■AOS テクノロジーズ、遠隔社長講話システム、1000 ヶ

所ライブ視聴可

AOS テクノロジーズ(東京都港区)は、自社の国内外の支店、営業所などの拠点に対して、企業の重役幹部などが朝礼や訓示などをライブで放送するシステム「eCEO(イーシーイーオー)」を開発、販売する。

同社が開発した、M4BOX(カメラ一体型ストリーミングサーバー)と、オープンソースのダーウィン・ストリーミングサーバーを拡張することにより、ブロードバンドインターネット環境での使用を想定したシステム。配信されたストリーミングデータはインターネットと PC の環境があれば視聴でき、同時に 1000 ヶ所のライブ配信が可能。導入コストは、従来の 1/5 に抑え、高度な技術者も必要なく運用が行える。

ライブで配信された映像は、同時に MPEG-4 で録画し、簡単に編集することもできる。録画された映像データの蓄積は、オンデマンドで視聴でき、従来に比べ 1/25、配信までのリードタイムは、1/10 で済む。(次頁へ続く)

<広告>トータル・ビデオ会議システム



<広告>イスラエル VCON のテレビ会議製品情報(日本語): 日本地方自治体等導入実績あり、PC タイプのテレビ会議システムからセットトップタイプのものから MXM メディアエクステンションサーバー、MCU、ストリーミング、開発ツールキットなど幅広いニーズに対応。テレビ会議メーカー、大手 5 社に入る。

H.323 対応 PC 用会議システム vPoint

VCON <http://www.vcon.com>



「日商エレクトロニクス株式会社」

H.323 テレビ会議とストリーミングを融合、

STARBAK TORRENT VCG

<http://www.nissho-ele.co.jp>

また、配信する映像には、社長の映像だけでなく、外部カメラなどを利用して、資料などの映像も配信が行える。そして、リアルタイムの配信時には、オプションで質疑応答機能を追加でき、IP 電話による会話が行える。

AOSテクノロジーでは、初年度の売上目標が10億円と見込んでいる。

■タンバーク社、北米仕様裁判制度向けのテレビ会議ソリューションリリース



ノルウェーのテレビ会議大手のタンバーク社は、北米市場向けとして、裁判制度に対応したテレビ会議システムのソリューション

をリリースした。また囚人向けなどへの遠隔医療ソリューションとの連携も考えたシステム構成となっている。(法廷向けパッケージ TANDBERG6000 を含む:通常よりカートの高さが高くなっている上写真)

北米では、州法にテレビ会議の利用が明文化されており(CNAレポート・ジャパン Vol.6 No.5 2004年3月15日号参照)、裁判などでのリモート宣誓証言、裁判官と弁護士との間での意見聴取、ビデオ訪問(刑務所の囚人と遠隔地にいる弁護士とのテレビ会議によるミーティング)などでの利用が法律で認められており、TeleJustice や VideoVisitation などと呼ばれ、利用されている。

タンバークのプレスリリースによると、全米の刑務所は、収容人数オーバーが33%を超えているそうだ。それに伴い、囚人の搬送に伴うコスト(たとえば、搬送費、逃走するリスクなど)、地域への不安の解消、弁護士などの出張コストの削減などからテレビ会議の利用が注目されている。

タンバークは、コートルーム(法廷)ソリューションとして、

Judicator(裁判官)システム、モジュラービデオシステム、SL シリーズ、Visitationソリューションを提供している。Judicator システムは、裁判官に使用されることを想定されたもので、15 インチのLCDディスプレイ、カメラ、内蔵マイク、スピーカーなどを装備。ISDN は、786kbps、IP は3Mbps まで対応。最新の映像符号化である、H.264もサポート。モジュラービデオシステムは、法廷での使用に工夫されており、TANDBERG6000をベースとして可動性を高めた仕様となっている。SL シリーズ(写真下)は、ビデオ訪問、遠隔による罪状認否手続き、精神科医による遠隔診療、遠隔リハビリトレーニングなどの使用を想定したシステム。刑務所内などでの利用を想定しているため、硬度の高い材質で筐体は制作されている。



米国では、囚人が入所した場合、14日以内に、身体測定から歯科、メンタルヘルスまでのメディカルチェックアップを行わなければならないが、タンバークの医療向けのテレビ

会議システムソリューションによって、その初期的な対応が行えるようになっている。たとえば、刑務所の囚人と遠隔にいる医師とを結び、囚人の搬送に関わるコストやリスクを削減できると見ている。

日本では、VTV ジャパン(東京都港区)などがタンバークの販売代理店。

■ウェベックス社、韓国企業と提携

ウェブ会議サービスの大手である米ウェベックス(WebEx)社が、韓国のソフトウェア開発の Modern High Tech 社と提携。Modern High Tech 社を通して、韓国市場にウェベックス社のサービスを提供開始する。

韓国の Modern High Tech の社長である、M.J. Kim 氏は次のように述べ、「ウェベックス社のサービスは、ブロードバンド環境の普及率が高い韓国では非常にマッチしたサービスだ。」と指摘。既に韓国内では、サムソン重工業や DHL 韓国

などのユーザーがウェブボックスサービスを利用しているようだ。

日本では、サイバーネットシステム(東京都文京区)が WebEx のサービスを提供しており、また WebEx のエンジンを使った NTT-ME の TOCSR(トクスル)などもある。

■コンピュネティクス社、暗号化機能の搭載、製品のライフタイムサポートも実施

音声会議、ウェブ会議、テレビ会議多地点接続装置を開発する米大手のコンピュネティクス社のハイエンド大型多地点装置である「CONTEX Summit」に AES 暗号化機能を搭載したと発表した。

CONTEX Summit は、24 ポートから最大 9600 ポートにスケラブルに対応し、ゲートウェイなしで通常の電話回線(PSTN)や IP 回線混在の多地点会議が行える。

また、CONTEX240/480 の多地点接続装置について、ライフタイムサポートサービスを提供することになった。

日本では NTT-ME が販売代理店。

■アエスラ、テレビ会議システム新製品をリリース

イタリアのテレビ会議メーカー、アエスラは、中規模から大規模人数に対応したセットトップテレビ会議システム「Vega Star Silver-E」とそのスプリットタイプ「Vega Star Silver-E Split」をリリースした。



Vega Star Silver-E Split

ISDN(H.320)は、768kbps まで、IP(H.323)は 2Mbps まで、V.35 は 768kbps まで対応する。昨年 ITU-T で勧告された、H.264 にも準拠している (Videoconferencing Insight 誌 2 月

スプリットタイプは、カメラ部とコーデック本体部が着脱するタイプだが、機能的には両システムは同じ。

号によると今年 4 月後半対応)。その他には、XGA の入力/出力、AES 暗号化、DualStream、内蔵 MCU (ISDN と IP 混在で最大 5 ヶ所まで、多画面分割が可能)、T.120 データ共有、パワーポイント共有機能、ウェブストリーミング機能、無線 LAN、自動音声トラッキング機能、ノイズなどに対応している。価格は、4750EURO(約 61 万円)から。ベースは 2Mbps の IP モデル。

Videoconferencing Insight 誌 2 月号によると、スイスのテレビ会議販売代理店大手の Telsys 社と提携し、アエスラのテレビ会議、電話会議全製品を取り扱う。

<広告>



シード・プランニング(株)

業務用TV会議システムのメーカー、ベンダー約 40 社を徹底調査したレポート発刊。2010 年迄の市場予測。

<http://www.seedplanning.co.jp>

■クリアワン社、ワイヤレス電話会議端末の海外出荷を開始

米クリアワン社が、販売を開始したワイヤレス電話会議端末の海外出荷を開始した。(CNA リポート・ジャパン Vol.6 No.1 2004 年 1 月 15 日号 参照)

海外出荷は、世界 50 のチャネルパートナーによって販売される予定。北米では、発売を開始して 3 ヶ月が経ち、現在 10 社のチャネルパートナーがあるが、今後も国内外でチャネルパートナーネットワークの拡大を図っていくようだ。

「Max Wireless」は、ベースユニットに電源と電話回線を接続することにより、電話会議端末ユニットとベースユニット間がワイヤレスに接続される。接続距離は、45 メートルなのでオフィス内であればかなりの範囲でベースユニットから離れたところで電話会議端末ユニットを持ち運び電話会議が行える。

また、「Max EX」は、通常のワイヤード(配線を必要とする)タイプの電話会議端末。通常広い会議室では、外部マイクなどをいくつか接続することにより会議参加者の声を広い範囲で拾うようにするが、この「Max EX」は、端末自体を接続する形態をとっている。それも 4 台まで同時に接続ができるという。

北米の価格は、「Max Wireless」が 699USD(約 74,000 円)、「Max EX」が、549USD(約 58,000 円)。

無線には、混信等に強いスペクトラム拡散通信技術を用いており、802.11 などのワイヤレス LAN 規格などの通信との混信もなくベースユニットと端末ユニット間は安定しているという。同時に 15 台同様な端末があったとしても他の無線チャンネルに切り替えたりするため混信はないという。

日本では、松田通商(東京都港区)がクリアワン社の製品を販売している。

■MotionMedia、ビジネス向けテレビ会議システム



mm745

MotionMedia 社は、テレビ電話、テレビ会議システム、監視システム、医療向けシステムなどを開発する英企業。日本には進出はしていないが、欧州、北米を中心にビジネス展開を行う。

MotionMedia は、上写真の mm745 を販売しており、モデルは、「mm745T」と「mm745」の 2 機種ある。

「ターゲットユーザーは、企業の幹部や役員クラスを想定している。CNAレポート・ジャパンの取材に対して、同社マーケティングサービスマネージャーの Helen Say 氏によると、「幹部や役員のデスクにある電話を置き換えるということが開発のコンセプト。小規模ミーティングルームにおいても最適な製品だが、小売や遠隔医療などの特定ソリューションの分野でも活用できる。」と説明する。

使用ディスプレイは、12インチ・タッチスクリーン XGA、カ

メラは 1/4CCD 単焦点、画面は前面に折りたたむことができる。「mm745T」でタッチスクリーンはサポートしているが、「mm745」で、「T」が付かないのはタッチスクリーンが付かないモデル。

通信帯域は、IP(H.323)で mm745T が、128kbps~2Mbps、mm745 が、768kbps までをサポート。

映像符号化方式は、最近の H.264 をサポートしている。

端子などは、ビデオ(入力/出力)、音声(入力/出力)など。S Video 対応。外部マイク、ヘッドホン、テレビ、ビデオなどと接続することができる。

内蔵のチップは、Equater を使用している。「チップ自身の能力とアーキテクチャーがしっかりしているため」(同 Helen Say 氏) 当面はこの Equater チップを活用する計画だ。最近、テレビ会議メーカーなどでは、Equater チップに移行する計画を持っているあるいは移行したところもある。

価格は、mm745T が 3895USD(約 41 万円)、mm745 が、3,095USD(約 32 万円)となっている。mm745 は 2003 年 5 月頃シスコシステムズの AVVID に登録されている。

mm745 の特長について編集長橋本が質問をおこなったところ、同マーケティングサービスマネージャーの Helen Say 氏が次のように述べた。「率直に述べて、ある意味でステータスシンボリックに購入するユーザーもいる反面、真剣に導入するユーザーは、投資に対する見返り(ROI)を期待して導入している。つまり、ホワイトカラーの生産性の向上や、社内トレーニングなどでの有効活用などを通して、出張にかかわるコストを削減し、またよりよいチームワーキングなどを達成する目的がある。無論この端末は、小さなテレビ電話製品と比べ高価なものであるが、映像などのクオリティは非常に高く、ユーザーフレンドリーなインターフェイスを搭載している。」

■SMART テクノロジーズ、L250 レクターンタイププレゼンテーション製品リリース

SMART テクノロジーズ社は、レクターンタイプのプレゼンテーションシステム「Symposium L250 インタラクティブレクターン」を発表した。L250 は、Symposium インタラクティブ・ペン・ディスプレイ、マルチメディアスイッチ、SMART Board ソフトウェアの機能が含まれる。

ペン・ディスプレイの機能により、パソコンなどで作成された資料など操作したり、書き込んだり(デジタルインク)、静止画

や動画上に書き込んだり、音声やデータを記録したり、ペンの色は変更したり、岸ゴムで消したりすることができる。さらに、ファンクションボタンで操作性を高めたりすることができ、オンスクリーン・キーボード、フローティング・ツール、スクリーン・キャプチャー・ツールなどが搭載されている。

L250 にプロジェクタを接続すると、それらの資料などを大きな画面に映し出すことができる。また、マルチメディアスイッチでは、映し出す映像ソースの切り替え、たとえば、パソコンや書画カメラなどの切り替えが行える。

L250 は、レクタータイプ。幅が 73.7cm で、キャスターが付いているため、移動させる時には通常のドアでも問題なく簡単に動かすことができる。加えてキャスターにはロック機能があるため固定させることも可能だ。そしてスライドできるパソコンキーボード棚そして、プライバシーパネル、書画カメラとスキャナー用の引き出しなどが付いている。

販売は、2004 年 4 月から。北米での小売価格は、7,999USD(約 84 万 4000 円)。教育機関等非営利組織向けにはディスカウントがあり、価格は 6,399USD(約 67 万 5000 円)となっている。日本の窓口は、SMART テクノロジーズ日本(東京都千代田区)になる。

■ブラジル・テレコム社、テレビ会議サービス提供開始

南米の通信事業者であるブラジル・テレコムは、イスラエルのラドビジョン社の多地点接続装置技術などをベース技術としたテレビ会議サービスを提供する。ブラジル・テレコムは、ラドビジョンの「ViaIP」を選択した。

今回の販売は、ラドビジョンのブラジルの販社である、ラドビジョンの技術支援等により、SupportCom 社によって行われ、2003 年第三四半期(10 月-12 月期)に売買契約が締結されている。システムは、今年の 1 月から稼働を開始している。

サービスはエンタープライズビジネス向けと、一般ユーザー向けの双方に提供。エンタープライズ向けでは、エンドポイント製品についてはサードパーティ製品を使うが、マイクロソフトのアウトルックと連携したテレビ会議、ウェブ会議、音声会議のサービスを提供し、顧客サポートは 24 時間、365 日対応。

一般ユーザー向けでは、ブロードバンドユーザー向けに IP テレビ電話サービスを提供する。現在は、インターネット

接続、VoIPサービス、ケーブルテレビ、VOD サービスなどと合わせてユーザーに提供する。ユーザーは、カメラ、電話、テレビ機能が内蔵されたセットトップボックスか、ウェブカメラと PC を組み合わせての IP テレビ電話サービスが利用できる。

ラドビジョン製品は、日本では日本 FA システム(神奈川県横浜市)、マクニカ(神奈川県横浜市)などが販売している。

■4Mbps に対応した多地点接続装置、英ベンチャー企業



MCU4200 シリーズ

2003 年 1 月に設立された、英のベンチャー企業、Codian 社が、1 ポートあたり 4Mbps まで対応した多地点接続装置(MCU)を販売している。同社社長の Mark Richer 氏は、1999 年にシスコシステムズに買収された、Calista の創業者でもあった。

MCU は、テキサスインスツルメント社のチップを使用しており、SIP と H.323 バージョン 4 に対応した MCU4200 シリーズ製品は、3 機種ある。MCU 4210、MCU 4220、MCU 4240。

3 機種の違いは、対応ポート数。3 機種全て 1 ポートが 56kbps~4Mbps まで対応。機種によって、ポート数が変わるが、テレビ会議用ポートについては、20 ポートから 80 ポート、同時搭載の音声用ポートについては、20 ポートから 80 ポートそれぞれ装備している。ストリーミングの機能も内蔵しており、ユニキャストが 100 から 400、マルチキャストについては無制限となっている。ストリーミングはアップルの QuickTime と RealAudio をサポートしている。

この MCU4200 シリーズの製品の特筆するところは、Ethernet ポートを 2 口装備していることで、片方をファイアーウォールの内側、もう片方をファイアーウォールの外側に接続する。そうすると、ファイアーウォールをバイパスすることができるため、ファイアーウォールの設定変更などが不要になる。

映像符号化は、H.261、H.263、H.263+、H.264、MPEG4 に、音声符号化については、G.711、G.728、G.729、G.722、G.722.1 をそれぞれサポートしている。映像フォーマットは、

CIF、1/4CIF、4CIF。その他には、リップシンク、トランスコーディング機能、レイトマッチング、暗号化(DES/AES)、ウェブインターフェイスによる会議予約、暗証番号による会議入室、オンスクリーン文字表示機能(名前や場所などを画面に表示する)などがある。

同社ホームページによると、多画面分割(コンティニューアス・プレゼンス)機能については、4Mbpsの帯域で、H.263映像符号化を使ったCIFの映像フォーマットで、30フレームがでる多地点テレビ会議の状況であれば、35種類の多画面分割のレイアウトを自由に使えるという。

ショートニュース

◆米国国家警備隊局が、ポリコム社のテレビ会議システム、Viewstation EXとVS4000を、54の事務担当副官のオフィスに導入することになった。これらのテレビ会議システムは、各全米の州知事オフィスと国土安全保障省とを結ぶテレビ会議ネットワークに接続され、通常のテレビ会議ミーティングや暗号化されたテレビ会議ミーティングを行う計画。日本では、ダイトエレクトロン(東京都千代田区)などが販売会社。

◆ソニーPCS-1バージョン2.2をリリース。H.239対応、繁体字対応、CTE-600対応(PCS-1リモコンでのマイク[ON/OFF]操作)が含まれる。バージョン2.0は、昨年10月。

◆ウェブ会議の大手米セントラ社のEMEA地区のマネージングディレクターに、Charles Zaiantz氏が就任した。また、セントラ社のEMEA地区本部が、イギリスのバークシャーに設置。

◆ウェブ会議サービス大手の米ウェブックス社のサービスによって、米アマゾン社(2002年売上138億USD約1兆4500億円:日本アマゾン社ホームページ情報)は、600万USD(約6億3000万円)のコスト削減が行えたと発表した。セールスミーティング、社内トレーニング、カスタマーサポート、幹部ミーティングなどで活用しており、同社にとっては、ウェブックスのサービスがビジネスコミュニケーションにおいてミッションクリティカルなツールとして活用されている。

◆ファーストバーチャル社のプレスリリースによると、フランスAFP通信がClickToMeetを社内コミュニケーションの効

率化のため、全社的に、世界2000名が勤務する110ヶ所のオフィスに導入した。同社ではイントラネットの社内基幹網によって全世界のオフィスがネットワーク化されている。

◆英の多地点接続サービス提供者である、MeetingZone社が、米コンピュネティクス社のCONTEX多地点接続装置を導入したと発表した。これにより、MeetingZone社は、オペレーター会議、自動予約不要会議、ウェブ会議などの音声会議を中心としたサービスで活用する。

◆英Videoconferencing Insight誌3月号によると、ダイムラーライスラーの金融サービス等を提供するグループ会社が、タンバークのテレビ会議システムTANDBERG1000を60台導入した。社員が本部との会議やプレゼンテーションに使うだけでなく、金融コンサルタントが顧客に対して、各種金融サービスの相談や提供において同テレビ会議システムを活用する。

イベント情報

■Centra 7 Web 会議体験セミナー

主催:株式会社マクニカ

インターネットとPCの環境で、オフィスから参加できる。

(参加は随時)

<http://www.networks.macnica.co.jp/centra/seminar.html>

■Centra 7 導入 How To セミナー

主催:株式会社マクニカ

新横浜:2004年4月7日(水)15時30分

新横浜:2004年5月6日(木)15時30分

場所:横浜市港北区新横浜1-5-5 マクニカ第2ビル B1 セミナールーム 詳細上URL参照

■Visual Nexus による新しいコミュニケーションのご提案

会期:2004年4月27日(火)

時間:13:30~16:15(受付開始は13:00~)

場所:沖電気工業 虎ノ門ショールーム

東京都港区虎ノ門1-7-12 新虎ノ門ビル(沖電気本社ビル)

主催:株式会社アイピー・ネット

共催:トーメンサイバービジネス株式会社

<http://www.i-p-net.co.jp/event/index.htm>

CNA Report Japan(シーエヌアール・レポート・ジャパン)
編集長 橋本 啓介 k@cna.jp(CNA Report Vol.6.
No.6 2004年3月31日号終わり)次号 Vol.6. No.7は、
2004年4月15日頃の発行を予定しております。ご購読
ありがとうございました。